

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
麻生医療福祉 専門学校福岡校		平成9年2月13日	竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日	麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999			
目的	社会福祉士受験資格(要実務経験1年以上)取得のための指定科目履修を行うとともに、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科併修による短大卒(保育科)と保育士資格ならびに保健児童ソーシャルワーカー資格(財団認定)の取得を目指す。また、乳幼児・児童から障害者、高齢者に至るまでの幅広い専門的な知識や援助技術を修得するとともに、向上心と協調の精神をもって広く社会福祉に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
教育・ 社会福祉	福祉・教育専門課程		社会福祉科		平成14年文部科学大臣 告示第19号		—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	3214	1800	694	424	0	392	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
120人		63人		3人		37人		40人
学期制度	<b>前 期:</b> 4月1日～9月30日 <b>後 期:</b> 10月1日～3月31日			成績評価	<b>成績表:</b> 有 <b>成績評価の基準・方法</b> 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価			
長期休み	<b>夏 季:</b> 8月8日～9月9日 <b>冬 季:</b> 12月26日～1月6日 <b>春 季:</b> 3月10日～4月10日			卒業・進級 条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度			
生徒指導	<b>クラス担任制:</b> 有 <b>長期欠席者への指導等の対応</b> ガイダンスの実施。学科責任者との面談、 三者面談の実施。			課外活動	<b>課外活動の種類</b> ボランティア活動 <b>サークル活動:</b> 有			
就職等の 状況	<b>主な就職先、業界等</b> 保育園、児童養護施設、障害者・児施設、 高齢者施設 <b>就職率<sup>※1</sup></b> : 100 % <b>卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup></b> : 96.8 % <b>その他</b> 0 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年4月1日 時点の情報)			主な資格・ 検定等	保育士資格 社会福祉士受験資格(実務経験1年要) 社会福祉主事任用資格			
中途退学 の現状	<b>中途退学者</b> 7名 <b>中退率</b> 8.6 % 平成28年4月1日時点において 在学者 81名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 74名 (平成29年3月31日卒業者を含む) <b>中途退学の主な理由</b> 進路の変更、健康問題、経済的問題など <b>中退防止のための取組</b> 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有。学科責任者や保護者を含めて の面談。ガイダンス記録による報告。							
ホームページ	URL: <a href="http://www.asojuku.ac.jp/amfc/">http://www.asojuku.ac.jp/amfc/</a>							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格および社会福祉士受験資格(要実務経験1年)取得のため、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の併修および厚生労働省 社会福祉士養成課程の指定カリキュラムで授業科目を編成。また、就職先に対して実施するお客様アンケートにより現場のニーズを把握し科目編成に生かす。なお、実習先へのヒアリング等を基に、指定カリキュラムでは不足している知識・技術を補完するための科目を追加し、現場のニーズに即した授業科目の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
大庭 欣二	社会福祉法人 シティ・ケアサービス 管理本部 本部長	平成29年4月～30年3月	③
江川 順一	特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～30年3月	③
桑原 由美子	NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしつづ 理事長	平成29年4月～30年3月	③
武田 聡	NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ 施設長	平成29年4月～30年3月	③
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～30年3月	②
松尾 智子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 研修委員	平成29年4月～30年3月	①
今村 浩司	北九州地区 精神保健福祉士協会 会長	平成29年4月～30年3月	①
竹口 伸一郎	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長	平成29年4月～30年3月	
上野 慎輔	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行	平成29年4月～30年3月	
山下 和美	麻生医療福祉専門学校福岡校 校長代行補佐	平成29年4月～30年3月	
前田 浩明	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任	平成29年4月～30年3月	
案納 賀世子	麻生医療福祉専門学校福岡校 ソーシャルワーカー科 リーダー	平成29年4月～30年3月	
川原 ゆり	麻生医療福祉専門学校福岡校 社会福祉科 リーダー	平成29年4月～30年3月	
小副川 賢治	麻生医療福祉専門学校福岡校 福祉心理学科 リーダー	平成29年4月～30年3月	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

3回

(開催日時)

第1回 平成28年6月25日(土)13:00～14:00

第2回 平成28年11月11日(金)16:00～18:00

第3回 平成29年3月3日(金)16:00～18:00

(開催日時 予定)

第1回 平成29年6月24日(土)13:00～14:00

第2回 平成29年11月10日(金)16:00～18:00

第3回 平成30年3月2日(金)16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

昨年度、近大カリキュラム(保育士養成通信課程)の改正に伴い科目及び実習の配置が大幅に変更となった。その中で学生たちに早い段階から目的意識を持たせ、社会に目を向け成長させること、考える力を身につけるためのしくみを作る取り組みをおこなっている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格および社会福祉士受験資格(要実務経験1年)取得のための必須の単位実習であり、保育所・児童福祉施設・高齢者施設・障がい者施設の社会的な役割や保育者・施設職員の役割、施設の一日の流れ、児童や利用者について理解することを目的とする。また、習得した知識・技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、利用者に対する理解を通じて保育・相談援助の理論と実践の関係について習熟させることを目的として実施。実習施設の状況および担当クラス、利用者に合わせて保育所では見学実習・観察実習・部分実習・全日実習等、施設では相談援助や支援の実習カリキュラムを調整し実施すると共に、課題の設定および達成を行っていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

保育実習では「保育所保育方針」に基づいた保育が行えるようになることを到達目標とし、相談援助実習では「相談援助実習ガイドライン」に基づき社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等総合的に対応できる能力を習得することを到達目標とし、1年次後期に相談援助実習Ⅰ5日間、2年次前期に相談援助実習Ⅱ18日間、後期に保育実習(保育所)10日間、3年次前期に保育実習(児童福祉施設)10日間および保育所または児童福祉施設実習10日間を行う。

なお、それぞれの実習において巡回指導を行い、実習指導者との面談による学生の状態、課題等の確認を行うと共に、学生との面談を行い、課題の確認と達成のためのアドバイス等を行い、実習施設と指導内容等の調整を行う。

実習終了後には各実習施設より、保育実習では事前準備の取り組み、実習態度と意欲、子どもとの関わりと理解、指導計画及び実習日誌の記入、保育の技術、専門職としての適性等の評価項目、相談援助実習では基本的知識の理解、実習の課題と目標の設定、実習日誌の記録、利用者との関係、援助の視点と方法、職員との関係、実習態度と意欲、仕事上の責任の遂行等の評価項目により評価していただき、実習評価表を提出してもらい、実習評価表を基に学生に対して実習事後指導を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習Ⅰ	国家資格である社会福祉士の受験資格取得に向けて、高齢者施設において相談援助の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	なのみ工芸、福岡市立つくし学園、あゆみのもり須恵、シティアケア博多、アットホーム博多の森 他
相談援助実習Ⅱ	国家資格である社会福祉士の受験資格取得に向けて、高齢者施設において相談援助の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	なのみ工芸、あゆみのもり須恵、シティアケア博多、アットホーム博多の森、天空の杜 他
保育実習Ⅰ(保育所)	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	福島保育所、玄海風の子保育園、松原保育園、飯盛保育園、奈多愛育園 他
保育実習Ⅰ(施設)	施設養護にかかわる保育士としての職務内容と役割を実践的に学ぶ実習。児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設の養護・支援に参加し、実習を通して児童・利用者等の個人差を理解し、その対応と養護技術を学ぶ。	あけぼの学園、すみれ園、聖母園、福岡育児院、福岡学園 他
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ(保育)での実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を修得することを目的とする。さらに、家庭と地域の生活実態にふれ、現在求められている子育て支援に必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士養成を目的とする。	城の原保育園、天星丸保育園、あすなろ保育園、内浜保育園、那珂保育園 他
保育実習Ⅲ	保育実習Ⅰ(施設)で習得した知識や理論を踏まえて、保育士として必要な資質・能力・技術の向上を目的とする。また、現在の児童福祉施設をとりまく家庭と地域の生活実態にふれ、家庭福祉ニーズに対する理解力を深め、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことを目的とする。	あけぼの学園、聖母園、福岡育児院、福岡学園、甘木山学園 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

保育現場および児童・障害・高齢者施設の現状を把握すると共に、現場で求められる人材、知識、技術を把握し、最新の情報を学生に伝えるために、各種協会等が実施する研修等へ参加。また、実習施設、就職先等との意見交換等も行い、情報収集および知識の向上を図る。

授業および学生に対する指導力等の修得・向上に関しても、本校の教職員研修規定に則って、教員の経験・スキル・目標に応じた研修が、組織的かつ計画的に行われている。

なお、これらの研修に参加した教員は、研修を通じて修得した知識・技能等について、他教員と共有するために学内での勉強会において随時発表する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成28年4月 NPO法人発達障がい者就労支援ゆあしっぷ主催 発達障害研修  
 平成28年12月 社会福祉法人 共栄福祉会 障がい者支援施設 板屋学園主催 事例研究会

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 「インプレッショントレーニング®」 平成29年2月  
 (概要)印象力向上を目的として、教育現場や対外的な活動の場で活用するためのインプレッショントレーナーによる研修。
2. 学生支援研修 平成29年2月  
 (概要)共感的理解からはじまる支援の実際を中心に、生徒支援に定評のある高等学校の校長による研修。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

平成29年5月～9月 ワーカーズコープ九州沖縄事業本部主催 子ども家庭応援(おせっかい)ワーカー養成講座2017

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 退学防止研修:平成29年8月21日
2. 教育コーチング研修:平成29年8月22日
3. 教員フォローアップ研修:平成29年8月24日

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

(1) 教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。
(3) 教育活動	・学科の教育目的、育人人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みをしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取り組みをしているか
(4) 学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。
(5) 学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6) 教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8) 財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。
(9) 法令等の遵守	・学科の教育目標、育人人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為にシステムが構築がされているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

卒業生及び施設等委員より、福祉人材の確保と卒業後の離職防止に向けた取り組みについての示唆があり、法人全体の組織としてよりも、学校単位・学科単位での取り組みに期待しているとの意見が挙げられた。福祉人材の不足は、福祉を目指す本校学生数の減少とも密接に繋がっており、企業や地域、職能団体とのつながりを強めていく方向性を共有することができた。学外の委員より、客観的な視点で評価をもらい、改善に向けて取り組む意義について教職員で共通認識を持つことができる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
玉ノ井 敏子	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
渡辺 裕子	(福)幸府福祉会 すみれ園 園長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしっぷ 理事長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員

武田 聡	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
江川 順一	福岡福祉向上委員会 代表	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
大庭 欣二	(NPO)木もれ日 カフェ ヒュッテ 施設長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
占部 尊士	西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～平成31年3月	その他
松尾 智子	(公社)福岡県介護福祉士会 研修委員	平成29年4月～平成31年3月	その他
大山 和宏	(一社)北九州地区 精神保健福祉協会 会長	平成29年4月～平成31年3月	その他
潮田 大介	(有)ケンルック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院 事務次長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長	平成29年4月～平成31年3月	企業等委員
池田 典生	(一財)日本医療教育財団 福岡支部長	平成29年4月～平成31年3月	その他
熊谷 智彦	久留米学園高等学校 校長	平成28年4月～平成30年3月	高校関係者
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役	平成29年4月～平成31年3月	地域住民
中島 文香	こども未来学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
野上 祐子	社会福祉科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
蒲池 桂子	福祉心理学科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 保護者	平成28年4月～平成30年3月	PTA
木下 典子	医療秘書科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
塚本 のり子	医療情報科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
所崎 あすか	診療情報管理士科 保護者	平成29年4月～平成31年3月	PTA
眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
児玉 諒	心理カウンセラー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
池上 幸子	介護福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
大本 葉	医療秘書科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 8月

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取組
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績、内定実績
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6)学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7)学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、校納金特別免除制度
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/>

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(福祉・教育専門課程 社会福祉科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教育心理学	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を考える。	1前	30	○			○			○	
○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、教育に関する基礎的な概念と知識の習得をはかること共に、将来あるいは現在、保育者として、親として、一人の大人として、現実に一人ひとりの子どもに具体的にどのように対処していけばいいのか、あるいは実際の教育問題にどう対処しようか解決していけばいいのかなどといった教育をめぐるきわめて重大な課題をより幅広く柔軟な視野で自分なりに考え実践していくための基礎を培う。	1前	30	○			○			○	
○			造形表現（指導法）	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	1前	16	△	○		○				○
○			社会的養護	福祉に欠ける児童の生存権、発達権を保障し、健全育成を目指すために、児童福祉施設入所児童に対する、社会的養護の基本的なあり方（は養護についての考え方、および児童の保護（衣・食・住）、指導、治療権利擁護、自立支援などについての理論と実際を専門的に、科学的に探究すること）を学ぶ。	1前	30	○			○				○
○			相談援助の理論と方法Ⅰ	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論、相談援助の対象と様々な実践モデル、相談援助の過程とそれに係る知識と技術（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。）、相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。	1前	30	○			○				○
○			現代社会と福祉Ⅰ（社会福祉）	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉の原理をめぐる理論と哲学、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）、福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係、相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。	1前	30	○			○				○

○		相談援助演習 I	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1 前	30			○	○	○			
○		相談援助実習指導 I	相談援助実習の意義について理解する。また、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得すると共に、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1 前	30		○	△	○	○			
○		音楽表現 I	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、楽曲の基礎を学び、譜面の読み方やリズムの取り方を理解する。	1 前	46				○	○			○
○		レクリエーション I	レクリエーションインストラクターの役割について理解し、レクリエーション活動支援の理論を習得する。	1 前	30			○	○				○
○		情報処理 I	WordおよびPowerPointの基本操作を習得する。	1 前	16			○	○				○
○		手話 I	手話の意義を理解し、手話の基礎的練習を通して手話の役割や必要性に関する認識を醸成する。	1 前	30		△	○	○				○
○		高齢者の心理	高齢者の心理を理解し、適切な援助ができる知識・技術を身に付ける。	1 前	30		○		○				○
○		障害の理解	障害者の心理を理解し、適切な相談援助ができる知識・技術を身に付ける。	1 前	30		○		○				○
○		コミュニケーション論	コミュニケーションの基礎について学び、カウンセリングの初歩的な技法を習得する。	1 前	16		○		○				○
○		交流ゼミ I	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1 前	16			○	○				○
○		GCB I	「感謝と思いやり」をテーマに、人間力、集団力、マナーの本質、行動力を学ぶ。	1 前	16		○		○				○
○		英会話 I	日常の会話を英語でも楽しむことができるようになるために、簡単な会話にも欠くことができない基礎的な事柄を学ぶ。	1 後	16			○	○				○

○		人間関係（指導法）SC	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。	1 後	16		△	○		○	○		
○		英会話 I SC	日常の会話を英語でも楽しむことができるようになるために、簡単な会話にも欠くことができない基礎的な事柄を学ぶ。	1 後	16			○		○			○
○		音楽（器楽・声楽）① SC	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	1 後	16					○		○	○
○		教育心理学 SC	子どもの学習行動を概念の獲得、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性、態度・学習を肯定する価値観を軸にして教育心理学を学ぶ。	1 後	16			○				○	
○		健康（指導法）SC	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それにかかわる環境についての理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導、援助の技術、技能獲得を目指す。	1 後	16			○				○	
○		音楽表現（指導法）SC	0才からの音楽的あやし言葉かけ遊び、月令、年齢に応じた手遊びやリズム遊び、歌唱曲を動きのある遊びに創作したり、それを実践するなど遊びを中心に実践する。	1 後	16					○		○	○
○		環境（指導法）SC	現代の環境で子ども達の生きる力を培うための保育の工夫、すなわち、自然体験、社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に、子どもの自然とのかかわりを深める保育の実践的指導能力の育成を目指す。	1 後	16					○		○	○
○		生涯スポーツ SC	高齢者、障がい者をも含めた各種スポーツの技能の向上を中核目標としながら、それに関わるスポーツ発展史（ルール史、用具史、戦略・戦術史）の理解を深めたり、国民スポーツの諸相と課題について学ぶ。	1 後	16					○		○	○
○		人体の構造と機能及び疾病（人体生理学）	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解すると共に、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、リハビリテーションの概要について理解する。	1 後	30			○				○	
○		相談援助の基盤と専門職 I	社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、相談援助における権利擁護の意義と範囲、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	1 後	30			○				○	
○		現代社会と福祉 II	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉の原理をめぐる理論と哲学、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の課題、福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）、福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係、相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。	1 後	30			○				○	





○		点字	点字の意義を理解し、点字の基礎的練習を通して点字の役割や必要性に関する認識を醸成する。	1後	30		△	○	○	○								
○		コミュニケーション演習	コミュニケーションの基礎について学び、カウンセリングの初歩的な技法を習得する。	1後	30			○	○									○
○		交流ゼミ I-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	1後	16			○	○									○
○		LHR I	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	1後	30			○		○								○
○		児童家庭福祉	将来を担う子どもたちに向かう児童家庭福祉実践者として、基本的・体系的に学習し、現在の児童家庭福祉（子ども家庭福祉）に関する知識と理解をしていく。	2前	30			○		○								○
○		保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培うこと、そして保育が直面している現実的・今日的で切実な課題にあたることにより、各人が課題意識を持って問題を掘り下げ、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識を持つ。	2前	30			○		○								○
○		健康科学	スポーツ活動との関連の中で健康や体力に関する知識や関心を高めることにくわえ、合理的な運動実践の習慣化を図る上での条件整備のあり方について学ぶ。	2前	16			○		○								○
○		発達心理学	発達心理学者として乳幼児教育に多大な影響を与えたJ. McV. ハント博士の理論を通して乳幼児の精神発達とその教育について学ぶ。	2前	30			○		○								○
○		図画工作 II	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関する基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2前	16				○		○							○
○		保育実習事前事後指導 I (保育所) SC	保育実習（保育所）を円滑に行うために、保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2前	16			○	△		○							○
○		言葉（指導法）SC	言葉（言語）の発達に関する理論、言葉の発達における子どもを取り巻く環境の影響について、特に「コミュニケーション」に着目し、その理論を理解する。また、保育所保育指針「領域言葉」を理解し、子どもの言葉をはぐむ保育者のかかわり方について検討し、理解を深める。	2前	16				○		○							○
○		造形表現（指導法）SC	幼児の造形の発達に関する内容や実践的な表現活動内容の研究を行い、幼児の造形活動に対して適切な援助と教育を行える能力を身に付ける。	2前	16				○		○							○

○		図画工作SC	幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる絵画・立体造形・色彩と構成に関する基礎知識と表現技術の授業を行い、幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育を行える能力を養成する。	2 前	16					○	○					○
○		子どもの食と栄養SC	保育者として小児に適切な食事を提供することができるよう、各時期の栄養法を理解し、調理技能の修得をめざす。	2 前	16					○	○					○
○		相談援助SC	将来に保育士を目指す者にとって必要とされる相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を修得する。	2 前	16				○		○					○
○		言語表現SC	保育者として、子どもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。また、子どもが児童文化財に親しむために必要な、言語環境の整備の方法について理解し、遊びを通して子どもが積極的に児童文化財を経験できる方法について理解する。	2 前	16				○	△	○					○
○		相談援助の理論と方法Ⅱ	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論、相談援助の対象と様々な実践モデル、相談援助の過程とそれに係る知識と技術（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。）、相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。	2 前	30				○		○					○
○		相談援助演習Ⅳ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	2 前	30				○		○					○
○		相談援助実習指導Ⅲ	相談援助実習の意義について理解する。また、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得すると共に、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	2 前	46				○	△	○					○
○		低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際、相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度、自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。	2 前	30				○		○					○
○		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）、高齢者福祉制度の発展過程、介護の概念や対象及びその理念等、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方、終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。	2 前	30				○		○					○

○		相談援助実習Ⅱ	相談援助実習を通して、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	2前	##				○	○	○	○	○	
○		音楽表現Ⅱ	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2前	46				○	○			○	
○		LHRⅡ	担任クラスの学生指導、クラス運営等についてグループワークを通し、社会人としての協調性・責任感を身に付ける。	2前	16			○		○		○		
○		交流ゼミⅡ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2前	16				○			○		
○		保育実習指導Ⅰ	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。	2前	30			○	△		○		○	
○		言葉Ⅱ（保育実技Ⅰ）	言葉（言語）の発達に関する理論、言葉の発達における子どもを取り巻く環境の影響について、特に「コミュニケーション」に着目し、その理論を理解する。また、保育所保育指針「領域言葉」を理解し、子どもの言葉をはぐくむ保育者のかかわり方について検討し、理解を深める。	2通	16				△	○		○	○	
○		家庭支援論	社会の変化によって現在の家族がどのように変わってきているか。今まで地域社会や親族、家族が果たしてきた役割、機能は何か。子どもを取りまく社会環境を点検し、これからの家族のあり方、役割を考えると共に、子育てを通し親や地域社会への援助の必要性とその方法を理解する。また、保育所の他にも、保健福祉センター、児童相談所、病院などの施設や機関、また子育てサークルなどの民間の団体が、社会のニーズにどのように対応しているか、その役割と機能を理解する。	2後	30				○			○	○	
○		子どもの食と栄養	小児の発育・発達の特性、栄養に関する基本的な知識をふまえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食（保育所給食）、食教育の重要性を理解する。	2後	16				○			○		○
○		子どもの保健Ⅰ①	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発育と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	2後	30				○			○		○
○		教職概論	教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解を通して、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応えるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標とする	2後	30				○			○		○

○		保育実習指導Ⅱ（教育課程総論）	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子どもたちの実態に即して、自主的に保育計画を編成することができるようになるために必要な基礎的な力を養う。 また、教育実習を円滑に行うために、教育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、特に指導計画案の作成や実習日誌の書き方等にかかわる知識と技術を身につける。	2後	30		○	△	○	○								
○		幼児体育Ⅱ	幼児期と小学校低学年段階との発達的な関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、特に、幼児体育を実践する上で必要な保育技術と教材づくりに関する実践的知識を習得する。	2後	16				○	○								○
○		音楽（器楽・声楽）②SC	幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。	2後	16				○	○								○
○		幼児体育SC	幼児期と小学校低学年段階との発達的な関連からその体育的な活動に関わった教育・保育内容とその方法を検討し、幼児体育を実践する上で必要な運動遊びのレパートリーを習得すること、さらに、そうした遊びの連続性・発展性を上げていく上での視点に関わった実践的知識を習得する。	2後	16				○	○								○
○		保育実習Ⅰ（保育所）	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	2後	80				○	○	○	○	○	○				
○		相談援助の理論と方法Ⅲ	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論、相談援助の対象と様々な実践モデル、相談援助の過程とそれに係る知識と技術（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。）、相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実践（権利擁護活動を含む。）について理解する。	2後	30		○			○								○
○		社会保障Ⅰ-②	現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）、社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。また、公的保険制度と民間保険制度の関係、社会保障制度の体系と概要、年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。	2後	16		○			○								○
○		音楽表現Ⅱ-②	幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得を目指す。また、子どもの歌の弾き歌いを通して、歌唱指導の方法について学ぶ。	2後	46					○	○							○
○		交流ゼミⅡ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	2後	16				○	○								○

○		就職実務 I	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	2 後	16		○			○		○		
○		カウンセリング概論	カウンセリングの基礎について学び、カウンセリングの初歩的な技法を習得する。	2 後	30		○			○				○
○		乳児保育	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3 前	16		○			○				○
○		子どもの保健 I ②	子どもの保健の意義を理解し、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題、子どもの心身の正常な発達と各期の特徴、子どもの保健行政について理解する。	3 前	30		○			○				○
○		障害児保育	子どもの心身の発達について及び脳の発達について理解を深め、それを基盤にして子どもの知的・身体的障害についての理解を深めていく。そして、障害児の発達的变化を促す保育的援助について考える。	3 前	16		○			○				○
○		保育実習事前事後指導 I (施設) SC	保育実習(施設)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。また、指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に付ける。なお、実習後には実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	3 前	16		○	△		○				○
	○	【選択】保育実習事前事後指導 II SC	保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深め、さらに、指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 (保育実習事前事後指導 II SCと保育実習事前事後指導 III SCのいずれかを選択)	3 前	16		○	△		○				○
	○	【選択】保育実習事前事後指導 III SC	子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家族への支援など保育の実践力を養うことを目的とする。さらに、児童福祉施設以外の施設についても理解を深める。 (保育実習事前事後指導 II SCと保育実習事前事後指導 III SCのいずれかを選択)	3 前	16		○	△		○				○
○		乳児保育 SC	3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につけ、子どものあるがままの姿を捉え、保育することができる力を養う。また、子育てを担う保護者を支援する者としての保育者の役割を考える。保護者の良き理解者、指導者としての知識や技能を習得する。	3 前	16		○			○				○
○		子どもの保健 II SC	子どもの健康と生命を守るための実践力を身につける。	3 前	16		○			○				○



○		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利、相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。	3 前	30		○		○										
○		福祉行財政と福祉計画	福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）、福祉行財政の実際、福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。	3 前	30		○		○										
○		社会保障Ⅱ	現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）、社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。また、公的保険制度と民間保険制度の関係、社会保障制度の体系と概要、年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、諸外国における社会保障制度の概要について理解する。	3 前	30		○		○										
○		相談援助演習Ⅴ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3 前	30				○		○								
○		相談援助の理論と方法Ⅳ（社会的養護内容Ⅱ）	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論、相談援助の対象と様々な実践モデル、相談援助の過程とそれに係る知識と技術（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。）、相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）、について理解する。	3 前	30		○				○								
○		相談援助実習指導Ⅳ	相談援助実習の意義について理解する。また、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得すると共に、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3 前	30		○		△		○								
○		更生保護	相談援助活動において必要となる更生保護制度、更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。	3 前	30		○				○								
○		就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3 前	16		○				○								
○		交流ゼミⅢ	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3 前	16				○		○								



○		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、相談援助における権利擁護の意義と範囲、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	3通	32		○		○										
○		基礎法学	日常生活において知りおくべき基礎的な法律および法律行為の実態を学びとり、法という視点から自らの生活のあり方を思索するとともに、現代社会におけるものの見方や考え方を養っていく。	3後	30		○		○										○
○		保育・教職実践演習SC	これまでの学習を通して身につけた知識や技術、資質能力が保育現場で発揮できるよう、形成されているかどうかを検討する。	3後	16				○		○								○
○		地域福祉の理論と方法Ⅱ	地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際、地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際、地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。	3後	30		○				○								○
○		保健医療サービス	相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービス、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。	3後	30		○				○								○
○		社会調査の基礎	社会調査の意義と目的及び方法の概要、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。	3後	30		○				○								○
○		福祉サービスの組織と経営	福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）、福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論、福祉サービスの経営と管理運営について理解する。	3後	30		○				○								○
○		権利擁護と成年後見制度	相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり、相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）、成年後見制度の実際、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。	3後	30		○				○								○
○		相談援助演習Ⅵ（保育・教職実践演習）	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3後	30						○								○

○		相談援助演習Ⅶ(卒研)	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3 後	46			○	○	○			
○		マナー	名刺交換など初対面のビジネスマナー、社会人一年目の正しい言葉遣い、保護者対応、職場内でのマナー、連絡帳の記入方法などを身に付ける。	3 後	16		○	△	○			○	
○		情報処理Ⅱ	WordおよびPowerPointの基本操作を習得する。	3 後	16			○	○	○			
○		心理学	心理学理論による人の理解とその技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康との関係、心理的支援の方法と実際について理解する。	3 後	30		○		○			○	
○		就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れ・対策を深める。	3 後	16		○		○			○	
○		交流ゼミⅢ-②	先輩・後輩との交流を通してコミュニケーション能力や情報収集能力・協調性を養う。また、様々な企画の運営・実行をグループ単位で行い、企画・運営力の育成、協働の重要性を身に付ける。	3 後	16			○	○			○	
合計				119 科目		3214 単位時間( 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。</li> <li>卒業基準検定を取得していること。</li> <li>学年の出席率が90%以上であること。</li> <li>学生としてふさわしい生活態度であること。</li> </ul>	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。